



ニュースレター

SDM NEWS



住友スリーエム株式会社カスタマーテクニカルセンター (CTC) を見学

8

2012年 月号

行事予定

2012年9月12日(水) 19:00 ~ 20:30
SDM研究所 宇宙システムラボ主催
連続宇宙公開講座第4回「宇宙に投資
する:宇宙ビジネスのシステムデザイン」
講師:湊 宣明(SDM研究科特任准教授)
@毎日ホール
<http://www.sdm.keio.ac.jp/2012/09/12-102120.html>

要事前登録 無料

2012年9月19日(水) 19:00 ~ 21:00
SDM研究科主催
フューチャーセッション特別企画
@日吉キャンパス協生館3階 C3S10(CDF)教室
<http://www.sdm.keio.ac.jp/2012/09/19-111415.html>

要事前登録 無料

2012年9月20日(木) 14:45 ~ 17:00
日本機械学会 機械力学・計測制御部門主催
慶應SDM研究所共催 特別講演会
@日吉キャンパス協生館 藤原洋ホール
<http://www.sdm.keio.ac.jp/2012/09/20-083649.html>

要事前登録 無料

2012年9月25日(火) 13:00 ~ 16:00
慶應SDM 女性の生き方を考えるワークショップ
@日吉キャンパス協生館
<http://www.sdm.keio.ac.jp/2012/09/25-160123.html>

要事前登録 無料

2012年9月30日(予定)
SDM研究所 宇宙システムラボ主催
連続宇宙公開講座第5回「宇宙を描く:
宇宙イノベーションによる未来デザイン」
講師:神武直彦(SDM研究科准教授)
@渋谷ヒカリエ

2012年11月13日(火)~11月15日(木)、
12月5日(水)~12月6日(木)
第4回 グローバルビジネスに打ち勝つ
プロジェクト・マネジャー能力強化研修
@日吉キャンパス協生館
<http://www.sdm.keio.ac.jp/2012/11/13-155423.html>

要事前登録 有料

慶應義塾大学イベントカレンダーもご利用ください。
http://www.keio.ac.jp/ja/event/201208/201208_index.html

通算45号 2012年8月発行



専任教員からのメッセージ

日本らしいチーム協働と 利他精神で世界に貢献を

残暑お見舞い申し上げます。暑い日が続いたこの夏も終わりに近づいてまいりました。私たち慶應SDMでは、この夏も暑さにめげずに様々な活動を精力的に行ってまいりました。ここにその成果をご報告できることをうれしく思います。

ビジネスでは、日本は国際競争力を失ってきていると言われておりますが、ロンドン五輪では、日本らしいチームワークでの大活躍を見せてくれました。短期的な収益を追求するビジネスと異なり、スポーツの世界は教育や研究と同様に、長期的視野で成長を見ていくものであります。そして自分たちの利益よりも、国や社会の「利他」を求めています。もともと利他精神がベースにある日本人は、日本らしいチーム協働と組み合わせることで、ビジネスの世界にも新しい生きる道があるように思います。

昨年の東日本大震災の際に海外から多くの支援をいただいたのも、日本が戦後長年にわたって行ってきた国際援助などの利他行為が長期的な信頼を得てきたことの表れでもあります。これからの日本が日本らしく発展を遂げ、世界に貢献していく日を夢見て、慶應SDMは日々努力を惜しまず前進してまいります。

SDM研究科准教授 当麻哲哉

最近のニュース

TOPIC 1 Rashmi Jain准教授による集中講義実施

2012年7月2日からの5日間、シンガポール国立大学のRashmi Jain准教授を招き、コア科目「System Architecture and Integration」および「System Verification and Validation」の英語による講義を行った。この2つの科目は、日本語および英語それぞれで開講されており、Jain准教授は英語による講義の一部を担当し、集中的に5日間連続して実施した。前者の科目では、システムアーキテクチャの定義から始まり、デザインを遂行するためのプロセスなどについて解説がなされ、グループワークやハイブリッド自動車のシステムアーキテクチャを設計についての演習がなされた。また、後者の科目では、システムを構築する際にどのような検証や試験が必要なのかという点についての解説から始まり、検証項目数とコストの関係、検証や試

験にも第三者機関による管理が必要なことなどが解説された。具体的な事例を対象にしたグループワークにより、検証と試験をしっかりと行うことは安全なシステムを実現することにも繋がるという事を学生は学んだ。



Rashmi Jain准教授による講義

TOPIC 2 星出宇宙飛行士リアルタイム交信イベントに向けた連続宇宙公開講座開催



狼SDM研究所顧問による講義

現在、国際宇宙ステーション(ISS)に長期滞在中の星出彰彦宇宙飛行士(塾員)とのリアルタイム交信イベントに関連し、SDM研究科では、7月より連続宇宙公開講座を定期的に行っている。この公開講座は、宇宙航空研究開発機構による星出宇宙飛行士滞在中のISSと教育機関の間のリアルタイム交信の公募にSDM研究科の提案が採択されたことを受け、「宇宙について既に学んだことのある大学生以上の方が改めて宇宙について学び、考える機会をリアルタイム交信や公開講座などによって提供して欲しい」という星出宇宙飛行士からの希望に応える形で開講することに

なったものである。このため、毎日新聞社との共催で、宇宙分野での実務経験のあるSDM研究科教員と外部講師をお招きし、定期的に公開講座を開催している。

まず、7月4日には狼嘉彰SDM研究所顧問(前SDM研究科委員長、元・宇宙開発事業団技術研究本部研究総監)による「国際宇宙ステーションのシステムデザイン」にてISSプログラムが開始された背景とそのシステムデザインや開発の歴史、7月31日には白坂成功准教授による「宇宙に行く:宇宙輸送機のシステムデザイン」にて、宇宙ステーション補給機「こうのとりに」を中心とした宇宙輸送機のシステム



小山正人JAXA特任担当役による講義

開発の成果や課題について講義が行われた。また、8月20日には宇宙航空研究開発機構小山正人特任担当役および日比谷孟俊SDM研究所顧問(前SDM教授)による「宇宙で暮らす:有人宇宙活動と宇宙環境利用のシステムデザイン」にて、ISSで行われている様々な宇宙活動、特に、今回の星出宇宙飛行士の長期滞在中の目的と期待される成果、また、人が宇宙に行き、滞在することの自然科学と人文・社会科学的意義などについての講義が行われた。今後も9月12日に毎日ホール、9月30日に渋谷ヒカリエにて連続講座が開催される予定である。

TOPIC 3 PMI日本フォーラム2012にブースを出展



慶應SDMがブース出展

2012年7月7日と8日の2日間、日本のプロジェクトマネジメント業界で最大級のイベント「PMI日本フォーラム」が開催され、約700人の参加者がある中、慶應SDMがブースを出展し、当麻哲哉准教授と神武直彦准教授がブースを訪れる参加者とコンタクトする機会を持った。

ブースでは教員による研究室紹介ビデオを流しながら、慶應SDMのパンフレットを配布、秋に開催予定の「プロジェクト・マネジャー能力強化研修」の予告案内を含む企業向け研修プログラムの紹介などを行った。大学からのブース出展はこのイベントでは初めてとのこと。

主催のPMI日本支部では、若手人材の育成に力を入れており、今年からプログラムの中にアカデミックトラックも設けられた影響で、多く

の大学や教育機関、企業の人材育成部門からの参加があった。アカデミックトラックでは当麻准教授が講演を行い、慶應SDMの人材教育を業界にアピールした。なお、当麻准教授はPMI日本支部の教育担当理事を務めている。



多くの参加者で混みあう出展会場

TOPIC 4 住友スリーエム株式会社見学会とリーダー育成ワークショップの開催

2012年7月11日、当麻哲哉准教授が学生・教職員ら15名を率いて、神奈川県にある住友スリーエム株式会社相模原事業所のカスタマーテクニカルセンター(CTC)の見学を行った。スリーエム社の持つ基本技術とアイデアをかたちにしていく製品開発について学び、その後、若手社員の方々とディスカッションする機会を持つことができた。

この見学会に先立って6月4日には、当麻准教授が当事業所を訪れ、テクニカルフォーラム講演会として、「次世代リーダー育成に挑戦す

る新しい学問〜システムデザイン・マネジメント学」と題した慶應SDMの紹介を行っている。講演には遠方の事業所からのネット会議参加もあり、技術職の社員総勢約90名が聴講、多くの方に慶應SDMを知っていただく機会となった。

また、これをきっかけに7月17日には前野隆司教授と白坂成功准教授が訪れ、慶應イノベティブデザインスクール(KiDS)のツールの一部を使ったミニワークショップを実施、若手リーダー育成の支援をさせていただいた。



ミニKiDSで自社のポストイットを惜しまず使う社員の皆さん

TOPIC 5 フューチャーセッション『ダイアログとデザインの未来』を開催

SDM研究所「ソーシャルデザインセンター」、「イノベティブデザインセンター」とグローバルCOEプログラム「環境共生・安全システムデザインの先導拠点」では、『ダイアログとデザインの未来』をテーマとした公開講座フューチャーセッションを2012年6月から開催してきた。

2回目となる2012年7月11日(水)には、企業と市民の「協働」によるソーシャルイノベーションの可能性について、株式会社国際社会経済研究所代表取締役社長(元NEC CSR推進部長兼社会貢献室長) 鈴木均氏と株式会社キュムラス・インスティテュート代表取締役の岩井秀樹氏を講師として招き、セッションを行った。

セッションの前半では二人の講師からそれぞれの活動事例の紹介と問題提起が行われた。後半ではそれを受け、早田吉伸非常勤講師がファシリテートし、参加者全員によるワークショップを実施した。企業、行政、大学、NPO等で活動する約70名の参加者で構成される本セッションは満足度も高く、「視野が広がり、新たな行動につなげていきたい」とのコメントが多数寄せられた。

フューチャーセッションは来年3月まで毎月開催をする予定。SDMのホームページ(<http://www.sdm.keio.ac.jp/>)で募集致しますので、ご興味のある方はぜひご参加ください。



参加者のダイアログの様子

TOPIC 6 SDM公開講座「編集のシステマ的思考とは」開催報告



講演を行う松岡正剛氏

2012年7月20日の「SDM特別講義」は、一般の方々も三田キャンパスにお招きして行われた。講師をつとめてくださったのは、編集工学研究所を主宰する松岡正剛さん。「編集のシステマ的思考とは何か」をテーマに、インターネット時代の光と影を縦横に読み解いてくださった。幾多の知のパイオニアたちが切



り拓いていった知を様々に組み合わせ、価値あるものを導き出す編集工学の全体像を示していただいた。松岡正剛さんはメディアで「現代日本のルネッサンス人」と評されるが、その知的な蓄積に聞く者は圧倒される思いであった。異なる分野を横断して個々の関係性をつないでいくエディティングの方法は、現代社会

のシステムに挑む者にとって、まことに刺激に満ちたものであった。松岡正剛さんが提唱する「方法の時代」の具体例を通じて「編集工学」のいう「工学」が、単なる匠の技を超えて、優れた知の営みであることがよく理解できた講義であった。

TOPIC 7 アグリゼミ 埼玉県須賀農園で自然農法の聞き取り調査



須賀農園で須賀さんご一家と

農林中央金庫寄付講座のアグリゼミでは、去年から、日吉キャンパス内に自然栽培農園を

開設するなど無農薬・無肥料の自然農法の研究も進めている。その一環として、2012年7月22日、林美香子特任教授とアグリゼミ生が、自然農法の先駆者である埼玉県・須賀農園を訪問した。

有吉佐和子著「複合汚染」でも紹介された須賀農園は、タイなど海外からの視察者も多く、その栽培法が注目されている。病弱だった須賀一男さんが、健康作りのためにと昭和32年から、「医食同源」に基づいた自然農法を開始した。一男さん・サカエさんご夫妻と長男の利治さんから、自然農法の説明を受けたあと、畑を視察。6haの農地のうち、2haが自然農法で、約40品種の野菜を栽培し、契約しているレストランや一般消費者に宅配している。学生た

ちは、苦勞の連続だったという自然農法による栽培法や土づくりの工夫について、熱心に聞き取り調査を行った。



須賀利治さんと畑の視察中

TOPIC 8 「PMP(Project Management Professional)®受験対策講座」開催



模擬試験の注意事項を語る大塚有希子氏

昨年からのスタートした「PMP®受験対策講座」が、今年度も6月から7月にかけての日曜・

祭日全5回合計35時間に及んで開催され、62名が受講した。今年度から主催をSDM研究所に移し、学生のほかに修了生や研究所研究員も参加できるようになった(今後は一般募集も検討中)。講師には昨年の講座から学生たちに好評の大塚有希子氏(富士ゼロックス総合教育研究所)を今年も起用した。

受講生たちは最終日に模擬試験を受け、さっそく受験の準備に入っている。すでに8月14日に1名が受験し無事合格という朗報が入っている。これにより昨年からの受講生合格者数が12名となった。また、今期の受講生の中には、社会経験がまだない若い学生が多く見受けられるため、実務経験が求められるPMPに代わって

大学生でも受験できるCAPM®資格(Certified Associate in Project Management)への挑戦者が出てくるのではないかと期待されている。



最終日の模擬試験を終え笑顔の受講生たち

TOPIC 9 医学教育学会特別セッションにCDF教室を施設提供



特別セッションで超高精細立体画像を見る参加者たち

2012年7月28日、日吉キャンパスで開催された第44回日本医学教育学会大会の中で、超

高精細立体画像を用いた医学教育のための特別セッションが、医学部解剖学教室の相磯貞和教授を座長に開催され、CDF教室の4K3D設備が会場として使われた。

この特別セッションは、SDM当麻哲哉准教授のアレンジのもと、医学部と理工学部の協力のもとで実現したセッションで、SDM NEWS5月号で報告された「医学部に高精細大画面高速光伝送システムを導入」を発端として、急遽当学会大会に特別に加えられたものである。

会場では立体画像による医学教育への活用について、様々な発表と議論が交わされた。当日のプログラムの中には、外科手術の立体映像

を信濃町キャンパスから高速光回線で生中継するなどの新たな試みも実験的に行われ、慶應義塾大学が保有する様々な技術を結集するものとして、日本中から集まった学会参加者に披露する機会となった。



大画面立体画像をKINECT技術の応用で操作する発表者

TOPIC 10 慶應SDM公開講座「顕在化する日本型システムの未来ークールジャパン戦略のパラダイムシフト」開催

慶應SDMでは、2011年度のデザインプロジェクトALPSにおいて和歌山県がプロポーザとなって行った「和歌山県の観光振興システムデザイン」の結果を受けて、クールジャパンの体系化と発信に関する研究を行ってきた。その結果の一部を世に問うために、「顕在化する日本型システムの未来」と題した公開講座を、2012年7月29日(日)に三田キャンパス北館ホールで開催した。

まず、「クールジャパン戦略」と題して経済産業省クリエイティブ産業課三原龍太郎氏に

基調講演を行っていただいた。続いて、4つの講演(「無限抱擁する日本システム」前野隆司(研究科委員長、教授)、「クールジャパンの虚実」渡邊賢一(SDM研究所研究員、元気ジャパン代表)、「主客逆転する日本システム」保井俊之(特別招聘教授)、「和歌山県・慶應義塾大学デザインプロジェクト報告ー和:Syncretic Harmony」林育正(修士課程2年))とパネルディスカッションを行った。聴講者約150名の熱気の中、質疑応答の白熱により予定よりも40分延長しての閉会となった。

なお、本公開講座の講演資料は慶應SDMのHPに掲載していますので、ご興味がおありの方はぜひご覧ください。



林育正君(修士課程2年)によるデザインプロジェクト報告

TOPIC 11 修論審査会 報告

2012年9月修了予定の学生(全7名)を対象として7月26日(木)に審査会を実施した。審査終了後に合否判定会議もあわせて行い、合格者および再審査対象者を決定した。再審査は8月25日に行う。

お知らせ

SDM研究科パンフレットの内容を一新し、配布を開始いたしました。修了生および在学生の声を含み、慶應SDMについて理解しやすいものとなっております。同パンフレットは、以下のサイトからダウンロードできます。ぜひご一読ください。

▶ <http://www.sdm.keio.ac.jp/pdf/sdm2013.pdf>



お知らせ

今月のラボ紹介は、お休みします。



慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科附属 SDM 研究所

〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉 4-1-1 慶應義塾大学 協生館
Tel: 045-564-2518 Fax: 045-562-3502 E-mail: sdm@info.keio.ac.jp